寺泊の町家における地域特性に関する研究
ーチャノマの特徴からみる室空間構成の仕組みー

A study on the space characteristics of traditional houses, Machiya, in Teradomari

樋口　雅希*1　西村　伸也*2　半澤　祐介*3　渡辺　恵*1
Masaki HIGUCHI　Shinya NISHIMURA　Yusuke HANZAWA　Megumi WATANABE

地域性に富んだ町家を読み解くことは、建築に留まらず、地域独自の生活や文化、地形等の地域の風土を読み解くことと同義であると考える。新潟県長岡市寺泊の町家を対象とした。町家のチャノマに着目して、独自の風土による特徴的な室空間構成の仕組みの一端を明らかにした。寺泊の町家は、寺泊の地域特性が具現化した形態であると考える。

Keywords　Machiya　mode of living　Chanoma　Partitioning　Tsumairi
町家　住まい方　チャノマ　間仕切り　妻入り屋根

1．研究の背景と目的

新潟県長岡市寺泊（旧寺泊町）を対象として、町家のチャノマに着目し、寺泊の町家における室空間構成の仕組みを探る。また、県内の妻入り町家と比較することにより、町家の類似及び特徴を見いだし、寺泊の町家における地域特性を明らかにすることを目的としている。

2．調査概要

寺泊は、新潟県の海岸線中央に位置し、日本海に沿って街区が形成されている。北国街道沿いの松沢町から白岩を調査対象地域とした（fig. 1）。出雲崎方面をカミ、新潟方面をシモと呼ぶ。漁村として開かれた町であるが、西回り航路等の寄港地、また北国街道沿いの宿場町としても栄えた。

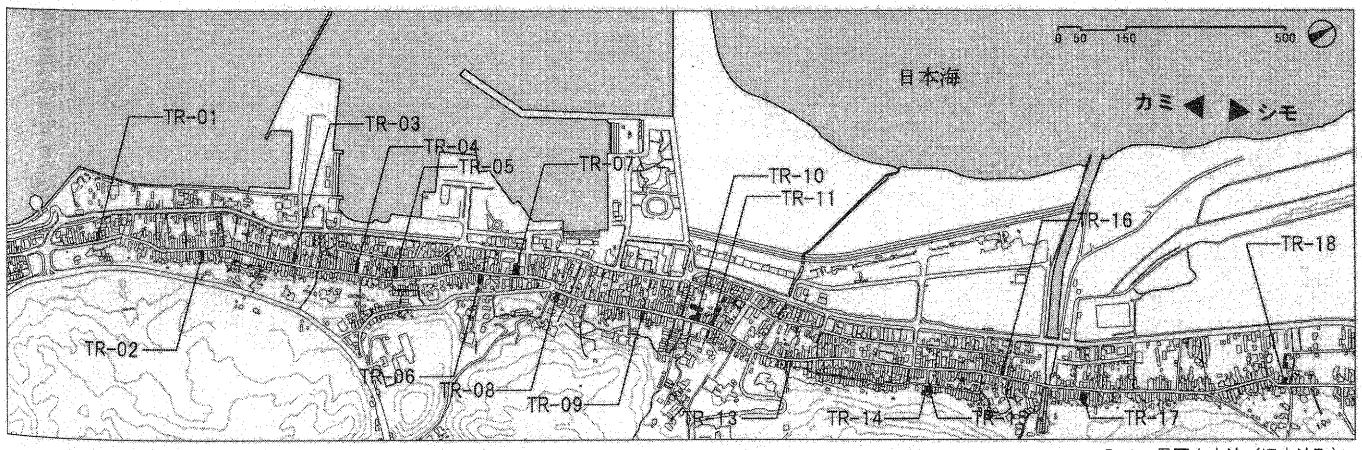


fig.1　長岡市寺泊（旧寺泊町）

*1新潟大学大学院自然科学研究科　博士前期課程　Graduate school of Science and Technology, Niigata Univ.
*2新潟大学工学部建設学科　教授・工学博士　Prof, Dept. of Architecture, Faculty of Engineering, Niigata Univ., Dr. Eng.
*3日建アクトデザイン　Nikken act design

調査は、2007年4月～11月に寺泊の町家計17軒の実測による住戸平面・断面の採取、及びヒアリング調査を行った(fig.2)。また、2007年11月～1月に新潟県内各地域の妻入り町家におけるチャノマの調査を行った(fig.3)。

3．寺泊の町家の室空間構成

寺泊の一般的な町家は、主屋、付属屋ともに切妻・妻入り屋根で、基本的な室構成は、一階オモテ側からミセ－チャノマ－ネマ－ダイドコロと続く(fig.4)。チャノマでは、側頂窓による採光方法が多く用いられる。ドマはオモテからウラへ抜けているが、現在は板張りにしている住戸が多い。二階はオモテニカイ、吹き抜けを挟んでウラニカイが配される。また、山と海に挟まれた傾斜地という立地条件により、山側と浜側では町家内部の空間構成に違いがみられた。

寺泊のチャノマは、一階2段目に位置し、主に接客に用いられるが、日常の団欒を行う住戸もみられた。チャノマには、神棚や仏壇、床の間が室の奥側に配され、上部は二階までの吹き抜けとなる住戸が多い。チャノマとドマ間の間仕切りは、住戸によって有無が確認された(fig.5)。県内13地域の妻入り町家では、チャノマとドマの間は建具によって仕切られており、仕切りのない住戸は寺泊の特徴といえる(fig.6)。尚、fig.3に示した地域を妻入り町家とする。

4．妻入り町家におけるチャノマの系統分け

4－1．チャノマの分類

妻入り町家において、チャノマ上部の屋根の高さと、チャノマに近接する庭から4つに分類した(fig.7)。

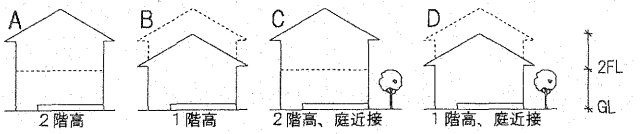


fig.7　チャノマの分類

13地域146軒の町家で統計を出すと、全体ではチャノマが二階高のAタイプが半数を占めたが、地域によりタイプの割合に違いがみられた。そこで、県内の町家を、信濃川流域系北側の黒崎大野、酒屋、曽根、小須戸、白根の5地域、南側の加茂、吉田、燕、三条、栃尾の5地域、阿賀野川流域系に位置する新潟、亀田、津川の3地域に分けた(fig.8)。

4－2．チャノマの空間構成の違い

信濃川流域系の町家は全体と同様にAタイプ、阿賀野川流域系の町家は1階高で庭が近接するDタイプが大きな割合を示した。チャノマの空間構成は流域系により大きく2つに分けることが出来る。詳しくみていくと、信濃川流域系南側の町家ではチャノマの屋根が二階高で庭が近接する町家が少なく、阿賀野川流域系の町家では一階高で庭が近

住戸番号	街区	住戸形態	建築年代	立地
TR-01	松沢町2	独立住居	1903年	ハマ
TR-02	松沢町2	独立住居	大正初期	ヤマ
TR-03	上荒町	空き家	大正初期	ハマ
TR-04	上荒町	独立住居	大正初期	ハマ
TR-05	上片町	独立住居	1943年以前	ハマ
TR-06	片町	独立住居	1870年	ヤマ
TR-07	片町	独立住居	明治以降	ハマ
TR-08	大町	独立住居	1900年頃	ヤマ
TR-09	上田町1	独立住居	1889年	ヤマ
TR-10	上田町3	独立住居	1912年頃	ハマ
TR-11	上田町3	独立住居	大正以降	ハマ
TR-12	荒町	空き家	不明	ヤマ
TR-13	蔵場町2	独立住居	1939年以前	ヤマ
TR-14	蔵場町2	独立住居	1900年頃	ヤマ
TR-15	磯町1	独立住居	1947年以前	ハマ
TR-16	磯町2	独立住居	不明	ヤマ
TR-16	白岩1	独立住居	明治末頃	ハマ

fig.2　調査住戸の概要

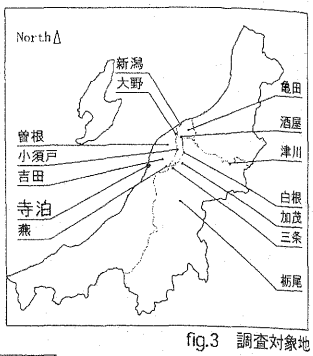


fig.3　調査対象地

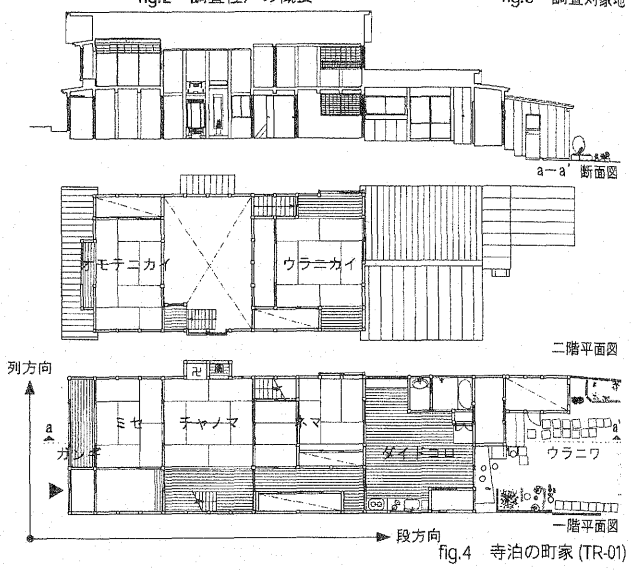


fig.4　寺泊の町家(TR-01)

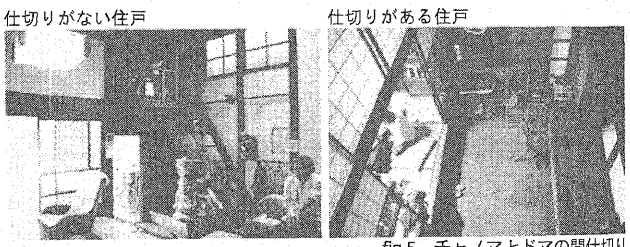
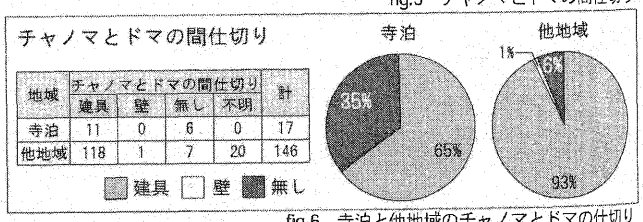


fig.5　チャノマとドマの間仕切り



地域	チャノマとドマの間仕切り				計
	建具	壁	無し	不明	
寺泊	11	0	6	0	17
他地域	118	1	7	20	146

fig.6　寺泊と他地域のチャノマとドマの仕切り

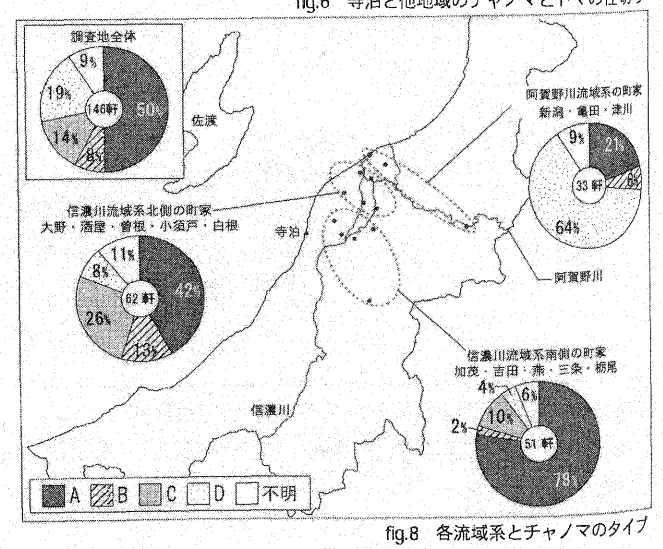


fig.8　各流域系とチャノマのタイプ

接する町家が多いことがわかる。信濃川流域系北側の町家は、チャノマの屋根、庭の近接共に、信濃川流域系南側と阿賀野川流域系の町家の中間値程度の割合を示す。これは、河川による文化の伝播とともに町家の系統も合わせて移り、地域に影響を及ぼしている為であると考えられる。

信濃川流域系の白根の町家（Aタイプ）、阿賀野川流域系の亀田の町家（Dタイプ）を例に挙げ、チャノマ周辺の空間構成を比較する。屋根の高さと近接する庭に加え、チャノマと仏壇の位置関係、住戸間隙の共用に違いがみられた。白根の町家では、ダシアイと呼ばれる住戸間隙の共用がみられ、チャノマでのダシアイに仏壇が納められる（fig. 9）。亀田の町家では、庭の近接により、チャノマに壁面が無くなる為、段方向にずれた部屋に仏壇を置き、住戸間隙の共用も行われない（fig. 10）。各流域系ごとに、チャノマの空間構成は類似する傾向にあるといえる（fig. 11）。

寺泊の町家におけるチャノマは、二階高で屋根がかけられ、Aタイプのチャノマが主となる。他地域の町家と同様に仏壇位置とチャノマでの住戸間隙の共用が確認される。寺泊の町家と各系の町家を比較すると、チャノマでの要素において、寺泊が信濃川流域系と傾向として類似していることは明らかである（fig. 12）。

5．寺泊の町家における室空間構成の仕組み

5－1．チャノマとドマ間の間仕切りとイロリ

寺泊の町家でみられたチャノマとドマ間の仕切り方を、仕切りが無い場合をドマ開放型、上部に仕切りが見られない場合をドマ半開放型、上下ともに仕切られる場合をドマ閉鎖型の３つに分類した。仕切り方に違いがみられる要因として、チャノマに設けられるイロリに着目した（fig. 13）。改築以前の形態を考慮に入れイロリの有無との関係をみる。イロリを持つ住戸はドマ開放型またはドマ半開放型であることが分かる（fig. 14）。寺泊の町家のイロリは縦横750～900mm程度の大きさであり、魚を焼く、湯を沸かす、暖をとる等に使われていた。チャノマにイロリを持つ住戸では、煮炊きの為に排煙の必要があり、ドマ開放型及びドマ半開放型のイロリからの排煙は、側頂窓から行われている。つまり、排煙の為、チャノマとドマ間に間仕切りがない。ドマ開放型は、ミセとチャノマ間のドマに間仕切りがあり、ミセに煙が流れない為の工夫がみられる。ドマ半開放型は、チャノマとドマ間の１階部分に間仕切りがある為、ミセに煙が流れる事はなく、ミセとチャノマ間のドマが仕切られない。寺泊の町家では、チャノマでイロリによる煮炊きを行う住まい方が、間仕切りの有無という形態の違い

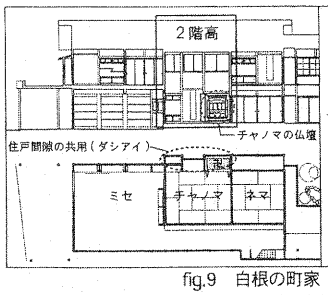


fig.9　白根の町家

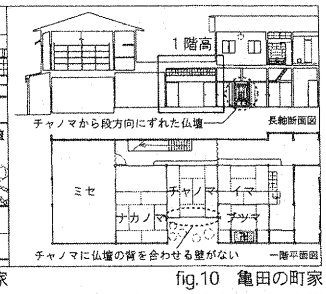


fig.10　亀田の町家

系統	地域	チャノマの屋根高	庭（ナカツボ）の近接	仏壇	チャノマでの住戸間隙の共用
信濃川	栃尾	2階	×	○	△
	三条	2階	×	○	○
	燕	2階	×	○	△
	吉田	2階	×	○	○
	加茂	2階	×	○	△
	白根	2階	△	○	○
	小須戸	2階	△	○	○
	曽根	2階	×	○	○
	酒屋	2階	×	△	△
	大野	2階	×	○	○
阿賀野川	新潟	1階	○	△	×
	亀田	1階	○	△	×
	津川	1階	△	△	×

fig.11　各地域におけるチャノマの各要素

系統	地域	チャノマの屋根高	チャノマへの庭の近接	仏壇位置	チャノマでの住戸間隙の共用
	寺泊	2階	×	○	○
信濃川流域系		2階	×	○	○
阿賀野川流域系		1階	○	△	×

fig.12　各流域系及び寺泊のチャノマ

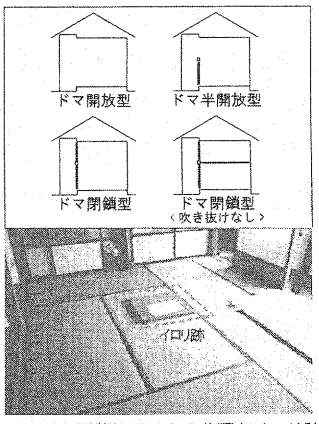


fig.13　間仕切りによる分類とイロリ跡

住戸番号	分類	イロリ
TR-01	ドマ開放型	○
TR-02	ドマ開放型	○
TR-03	ドマ閉鎖型〈吹き抜けなし〉	×
TR-04	ドマ閉鎖型（開放型）	●
TR-05	ドマ閉鎖型	×
TR-06	ドマ閉鎖型（半開放型）	●
TR-07	ドマ閉鎖型	×
TR-08	ドマ開放型	不明
TR-09	ドマ閉鎖型〈吹き抜けなし〉	×
TR-10	ドマ閉鎖型	×
TR-11	ドマ開放型	○
TR-12	ドマ閉鎖型	×
TR-13	ドマ閉鎖型〈吹き抜けなし〉	×
TR-14	ドマ半開放型	○
TR-15	ドマ開放型	○
TR-16	ドマ開放型	○
TR-17	ドマ閉鎖型（開放型）	●

fig.14　分類とイロリの関係

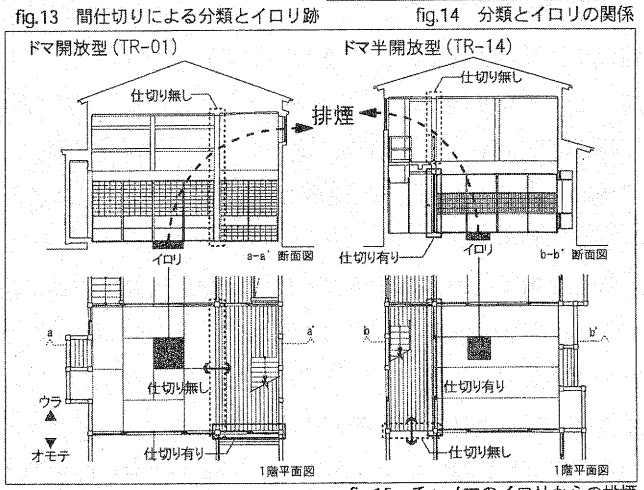


fig.15　チャノマのイロリからの排煙

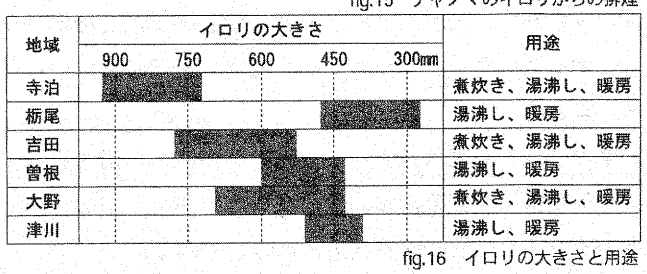


fig.16　イロリの大きさと用途

に影響している (fig. 15)。

寺泊の町家のイロリとの比較をする為に、栃尾、燕、吉田、曽根、黒崎大野、津川の６地域について、チャノマでのイロリの使われ方と大きさを調査した (fig. 16)。各地域のチャノマのイロリには大きさと用途に違いがみられ、縦横 600 ～ 750mm 以上のイロリでは煮炊きが行われ、小さいイロリは湯を沸かす等の接客に用いられていた。他地域の妻入り町家におけるイロリからの排煙は、天窓から行われることが多く (fig. 17)、この場合チャノマの間仕切り等に変化はみられず、排煙を必要としない小さなイロリの住戸も同様であった。寺泊の町家のイロリは大型であり、他地域とは異なる側頂窓から排煙を行うという特徴があるといえる。

５－２．チャノマのイロリによる空間構成への影響

■チャノマ付近の階段位置と主屋二階のつながり (fig. 18)

寺泊の町家では、チャノマ付近においてドマに平行に上がる階段とドマに垂直に上がる階段がみられた。２種類の階段をチャノマの間仕切りの型で分けると、ドマに垂直な階段はドマ開放型のみでみられる。これは、ドマから遠い壁に仏壇や床の間が配され、チャノマとドマ間の間仕切りの有無により階段を置くことが可能な箇所が決まる為である。また、主屋二階の廊下でのつながりをみると、主屋二階は連結している住戸と分離している住戸がみられた。

チャノマにおけるイロリの有無とチャノマ付近の階段位置、主屋二階のつながりの関係を整理する。イロリが有るドマ開放型の住戸は、ドマ平行及びドマ垂直の階段位置となり、主屋二階は分離している。ドマ半開放型では階段位置はドマ平行であるが、二階はドマ開放型と同様に分離している。イロリが無い住戸は、ドマに平行な階段が配され、二階が連結される。両者の差異は、イロリの有無であり、排煙の為にドマ上部に廊下を設けていないと考えられる。

■主屋二階の格式

寺泊の町家における主屋二階には、格式の高い部屋が配される。二階が分離している住戸は、チャノマ周辺の階段から上がるオモテニカイが格式の高い部屋とされる。二階が連結している住戸は、格式の高い住戸は主にウラニカイが格式が高い部屋とされていたが、オモテニカイの住戸も数戸みられた。主屋二階の格式は一様に決まるものではなく、オモテニカイとウラニカイの両方で確認できた。

６．まとめ

県内妻入り町家は、チャノマの空間構成から信濃川流域系と阿賀野川流域系に傾向を分けることができ、寺泊の町家のチャノマは信濃川流域系と類似していた。

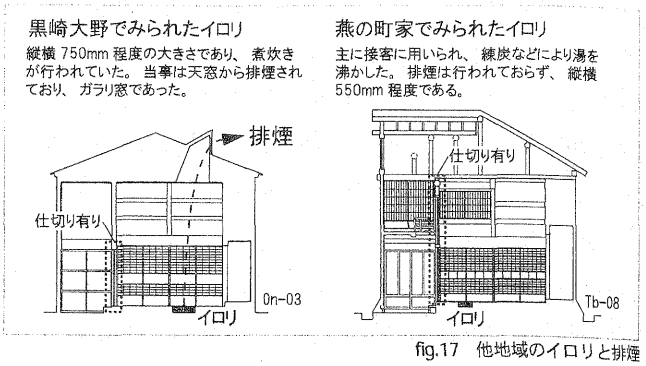


fig.17　他地域のイロリと排煙

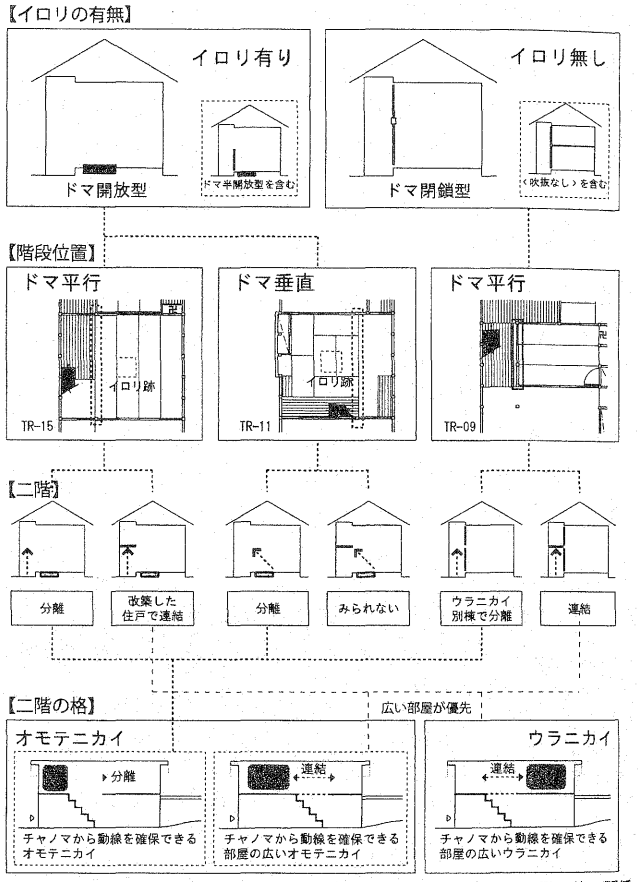


fig.18　階段と二階のつながり、二階の格の関係

寺泊の町家にみられるチャノマとドマの間の間仕切りが設けられない町家は、県内妻入り町家において特徴的な空間である。チャノマとドマの間仕切りは、チャノマに設けられたイロリの有無と関係しており、イロリがある住戸では、間仕切りがなくなる。チャノマとドマの間仕切りの有無は、階段位置、オモテニカイとウラニカイのつながりに影響している。主屋二階の格式の高い部屋は、チャノマから移動動線を確保出来る部屋であり、より広い部屋が用いられること考察する。

寺泊の町家では、チャノマにおける大型なイロリを用いた住まい方、山と海に挟まれた傾斜地という立地条件等、独自の風土による特徴的な室空間構成の仕組みを明らかにした。寺泊の町家は、寺泊の地域特性が具現化した形態であると考える。